

都会のひと部屋 (1982)

UNE CHAMBRE EN VILLE

メディア 映画

ジャンル ドラマ ミュージカル

製作国 フランス

時間 92分

公開情報 劇場未公開・NHKで放映

【解説】

J・ドゥミが「シェルブールの雨傘」の夢をもう一度と取り組んだ、故郷ナントの55年を背景とした、市井のミュージカルなのだが、なんでこんなストーリーを音楽映画にするのか全く理解に苦しむ陰惨な内容で、全く失望した。音楽もいつものルグランでなくM・コロンビエで面白味なし。デモに参加していたフランソワ（ベリ）は、男爵家の娘だったことを鼻にかける未亡人マルゴ（ダリユー）のアパートの一室を間借りしている。彼女の嫌味がたまらず、出て行きたかったが、ストで仕事がなく家賃滞納の身だ。彼には結婚を控えた恋人ヴィエレットがいたが、あまりに家庭的なのを退屈に感じ、内心別れたがっていた。マルゴのもとに長らく便りのなかったエディトが帰ってきて、夫への不満たらたら。が、間借り人が冶金工というのを知ってほくそ笑む。通っている占い師が、冶金工と新たな恋が芽生えたとご託宣を述べたからだ。彼女はデモの帰りの彼を待ち伏せて誘いかける。毛皮の下は何一つ着ていない。たちまち愛し合う二人。ヴィエレットは彼の不貞を気配で察知し、喧嘩別れをするが、既に彼の子供を孕んでいた。テレビを売るエディトの夫エドモン（ピッコリ）は一筋縄でいかない。彼女は用心にピストルを持って別れを告げに向かうが、逆上したエドモンはカミソリで彼女を脅し、自分の首を掻き切って果てる。彼女はその場を逃れ、母の家に飛び込む。すると、ヴィエレットが直訴に来るが、折しもデモ隊は機動隊と衝突。その先頭にいたフランソワは撲殺され、エディトは先のピストルで胸を撃って自害するのである。ミュージカルで悲劇も、それは表現のいかんによるが、まさかD・サンダが露出狂になる映画をドゥミが撮るとは……。記憶から抹殺したい映画の悲劇。

【クレジット】

監督	ジャック・ドゥミ	Jacques Demy
音楽	ミシェル・コロンビエ	Michel Colombier
出演	ドミニク・サンダ	Dominique Sanda
	ダニエル・ダリユー	Danielle Darrieux
	リチャール・ベリ	Richard Berry
	ミシェル・ピッコリ	Michel Piccoli